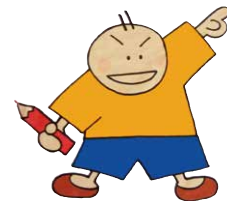


生活者ネットニュース



■発行：多摩・生活者ネットワーク ■発行責任者：原田恭子 ■連絡先：〒206-0014 多摩市乞田 1227-1-112 番地
■TEL:042-376-5758 ■FAX:042-376-8854 ■ホームページ <http://www.tama-net.jp/> ■E-mail:office@tama-net.jp

161号

「中央図書館」未来を見据えた公共施設

7月1日、多摩市中央図書館がオープンしました。「知による地域創造」を掲げ7年以上を費やしての建設は、多摩市にとって久しぶりの大型施設建設です。オープン初日には約2万人が訪れたそうですが、この建物が多摩市では初めてZEB Ready (ゼブ・レディー)の認証を受けたことはあまり知られていません。

建物のエネルギー消費を極力削減

あまりなじみのないZEBという言葉。ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(略称で、快適な室内環境の実現と、建物の年間消費エネルギーの削減)の収支ゼロを指した建物のことで、公共図書館では全国で3番目だそうです。多摩市中央図書館が認証を受けたZEB Readyは、4段階あるZEBのひとつで、消費エネルギーの50%以上が省エネや創エネでまかなわれるもの(中央図書館※建築物で消費するエネルギーを熱量換算したもの)

は太陽光パネルによる創エネも加算すると60%の削減率)。効率いい省エネ機器の導入は今や当たり前ですが、自然の採光や、ひさしによる日射の制御、屋根や外壁の高断熱化や高断熱遮熱型の二重窓など設計段階から、エネルギー

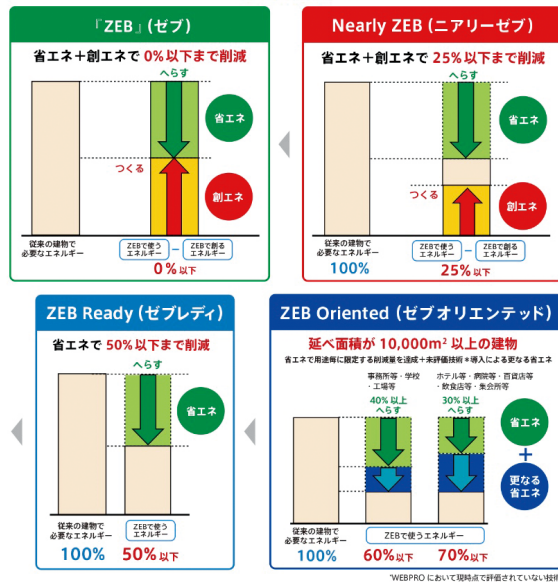
を使わずに寒暖の影響を抑える工夫がなされました。最も影響が大きいのは、中央公園端の斜面際に建てたからこそその半地下化による室温の安定です。環境部からの提案も受け止めた、これら自然と地形を味方につけた工夫を、ぜひ市庁舎建設にも活かしてほしいものです。今後3年間、エネルギー使用の履歴を分析、検証を行い、こ

の建物固有の最適な設定値を見極めることでした。

市民にアピール 見えるビジョン

さて、地球温暖化による世界的な気候変動に対し、足元からできることは何か。今年3月、多摩市は「多摩市再生可能エネルギービジョン」を策定しました。2030年までに、今から10年前と比べてCO₂排出量を半分にするための市民、事業者、行政共通の道筋です。ただ、行政による「計画」や「ビジョン」は、市民から見えにくく関心もないのが常。誰もが利用する中央図書館が自然と地形を生かした環境配慮型で建てられたのは大きな意味があったのではないのでしょうか。

ZEBの定義



グリーンインフラでまちを冷やす

環境基本法制定から30年。東京都は植物の保水力、CO₂吸収、緑陰効果を活かした「グリーンインフラ」導入に力を入れる考えですが、温暖化による気候変動や、それに伴う猛暑、集中豪雨は既に人間の力だけでは防ぎようがないところまでできています。特にコンクリートで覆われた東京はヒートアイランド対策、つまり「まちを冷やす」ことが喫緊の課題です。現在、改定が進められている「多摩市みどり環境基本計画」。2050年のCO₂排出ゼロを目指し、市民も行政も事業者も一丸となってこの非常事態にブレーキをかけるための「みんなの計画」にしなければなりません。

ありの眼 届け 市民の思い

7月17日「旧統一教会はNO!多摩市民連絡会」主催の前川喜平さんの講演会に参加しました。題目は「旧統一教会と日本の政治」

会場はヴェイタホールは熱気にあふれ、満席。市民の関心の高さを感じました。

前川さんのお話は多岐にわたり、政治の裏側の興味深い話が多かったですが、印象に残ったのは、前川さんが1997年文部科学省副大臣として旧統一教会の名称変更を認証しなかったが、2015年に「世界平和統一家庭連合」に名称変更が認められたということ。旧統一教会の政治への関わり

の一端がわかり驚きでした。旧統一教会に対する解散命令請求の行方はどうなるのかわかりませんが、身近に旧統一教会の施設ができる可能性について、これからも関心を持ち続けていきたいと思っています。

連光寺 N・S



6月議会一般質問より

市議会議員 **岩崎みなこ**

一つ一つの課題にも 市民の声を生かして

■多摩センター駅前王プラザホテル閉鎖後
市民から宿泊施設として残してほしいとの要望は多いが、民間事業者に対し、施設の用途を市から要望するのは難しいとの答弁でした。都市計画は高度制限の指定がない商業

■市のウォーキングイベントでのポール使用を
市のホームページでは、ポールを使う全身運動となるノルディックウォーキングは、年齢問わず推奨していますが、健康推進課のウォーキングイベントではポールの使用が禁止されています。健康づくり推進員と呼ばれる市民の方々がイベントの企画・運営を担っているため、安全への配慮が理由でした。今後は、推進委員さんも専門家から研修を受けていただくとの答弁を得ましたが、市民に対し、理由を丁寧に説明する姿勢が必要で

改選後初めての一般質問は、選挙期間中にいただいたご意見の中から特に関心の高かったものを3つ選びました。

市民から宿泊施設として残してほしいとの要望は多いが、民間事業者に対し、施設の用途を市から要望するのは難しいとの答弁でした。都市計画は高度制限の指定がない商業

■旧統一教会の市内進出に待った！
団体は7月3日、建物の解体工事を始めましたが、多摩・生活者ネットワークは今も市民と連携し署名活動も行っています。市内の土地購入は、多摩市民がこの問題を自分事と捉えるきっかけになったと感じています。同時に、多摩市から隣の市に出ていくのであればそれで解決という問題ではありません。霊感商法の問題、二世の問題といった人権侵害とも言える行為をする団体を許さない決意で、法に則り団体に対し毅然と立ち向かっていかなければなりません。一般質問では私以外にも、各交渉会派の議員が取り上げました。関心は高まっています。議会としても何かしらの行動が求められます。

地域です。市のパートナーである京王電鉄との関係を大切にしつつ、多くの市民が期待と関心を持っていて、市から電鉄に常に伝えるよう要望しました。

6月議会一般質問より

市議会議員 **岸田めぐみ**

多摩市気候非常事態宣言を具現化する、 みどりと環境基本計画の策定を



■グリーンライブセンターは環境を学ぶ
守る市民の拠点に
みどり、環境、生物多様性ほか環境に関する計画は、法に基づき個々に改定されますが、本市では気候非常事態宣言の目標達成に向けた総合計画として改定します。市は全庁で取り組む姿勢ですが、市民も巻き

■将来にわたって影響をうける若者たち
多摩市気候非常事態宣言を出してから3年。気候危機は未来世代への影響が大きいと、世界で若者たちがアクションを起こしています。今年度から環境部が開催している気候市民会議に先立つワークショップでも「気候危機の悪影響を受けるのは自分たち。早期の対策が重要だとわかってほしい」と中高生世代から声が上がっています。自分たちだけでなく、将来生まれる子どもたちへの責任を感じているのです。その声を受け止め、責任ある姿勢を求めました。

込んだ取り組みには拠点が必要です。これまでグリーンライブセンターは都市緑化の拠点施設としての役割を果たしてきましたが、今後は次期計画に見合った機能が必要だと指摘したところ、基本方針の一つにみどりやみず、いきもの情報集積、情報活用場の場としての活用を盛り込んだとの答弁でした。

■気候市民会議の総意を反映する計画に
気候市民会議では多摩市14万人の縮図となるよう、無作為抽出された市民が気候温暖化対策について議論してきました。最終回の7月29日にまとめられた提言は「みどりと環境基本計画」の具体的な取り組み項目として反映されます。市民と共にこの計画が、みずとみどりといきものと豊かに暮らせる多摩市を次世代につないでいけるものにしてほしいです。

と意見交換し、「みどりと環境審議会」にも分科会による議論をお願いしています。今年に入って立ち上げた「気候市民会議」は5回が既に開催され、市に提言が渡されました。一連の流れは多摩市の環境の基本計画である「みどりと環境基本計画」に集約されるということです。

5回開催された「多摩市気候市民会議」

次世代の参加が実践のキーワード

温暖化現象を実感する酷暑が続く中で改定作業が進む「みどりと環境基本計画」。ここから10年の計画に何を盛り込むか、多摩市環境部は市民参加の間口を広げています。

2022年10月には東京大学先端科学技術研究センターの谷口信夫特任研究員の講演後に市民ワークショップが開催されました。また11月には落合中、聖ヶ丘中、永山高校、大妻多摩中学高校などの中高生が参加してのワークショップを開催。この流れは多摩市再生可能エネルギービジョンにつながりました。

一方、水とみどりの分野では市民団体

と意見交換し、「みどりと環境審議会」にも分科会による議論をお願いしています。

今年に入って立ち上げた「気候市民会議」は5回が既に開催され、市に提言が渡されました。

一連の流れは多摩市の環境の基本計画である「みどりと環境基本計画」に集約されるということです。



5回開催された「多摩市気候市民会議」

「旧統一教会はNo! 多摩市民連絡会」による「旧統一教会の多摩市進出に関する要望書」の署名第二次集約分43805筆分（7月24日現在）が多摩市長に提出されました。

市も団体に対し、国の解散命令が出ないと決まるまでは解体、建設を行わないよう申し入れたり、国や都には対応を求め、都知事も協力姿勢です。隣接する国士館大学も計画の中止と撤回を申し入れ、7月末には東京都26市の市長会も都知事に緊急要望書を提出。連携が広がっています。オンライン署名にご協力ください。



遊説と署名のお願いをする岩崎みなこと岸田めぐみ



オンライン署名 賛同人登録

infomation

今年も開催！第32回多摩市平和展 ～すべてのいのちに平和な地球を～

- 会期：8月20日(日)～27日(日) 10時～18時
- 会場：パルテノン多摩(入場無料)

■オープニングイベントは安田菜津紀さん(認定NPO法人 Dialogue for People 副代表/フォトジャーナリスト)による講演会です。

『紛争地に生きる子どもたちの「声」～次世代に手渡していきたい社会の形とは』

- 日時：8月20日(日) 14:00～15:30 (13:30開場)
- 会場：パルテノン多摩小ホール

内容：安田菜津紀さん自らが取材した紛争地の状況や自身の活動を通し、これからのような未来を選んでいくのかを考えます(事前の申し込みが必要です)。市民ギャラリーでは安田菜津紀写真展「The Voice of Life 死と、生と」も同時開催しています。



詳細はたま広報7月20日号 又はHPで



安田さんの撮った写真が掲載されたポスターが市内に貼られている

今年もお目見え、草刈りヤギさん

多摩センター駅前中央第3駐車場のリメ法面にとんがり屋根が3つ見えます。これがヤギの家。この連日の炎天下でも一生懸命草を食んでくれます。

おかげで甲高い草刈り機の音のかわり「うめえ～うめえ～」と鳴くヤギさんの声に、暑さにいらだっている気持ちのがらぎます。

